

大学におけるアダプテッド・スポーツに関する意識調査

中山 貴奈 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 小笠原 悦子

アダプテッド・スポーツ 障害者 高齢者

1. 緒言

アダプテッド・スポーツは「身体に障害のある人などの特徴に合わせてルールや用具を改変、あるいは新たに考案して行うスポーツ活動を指す。身体に障害のある人だけでなく、高齢者や妊婦等、健常者と同じルールや用具の下にスポーツを行うことが困難な人々がその対象となる」と定義されている(藤田, 2008, p14-15)。

アダプテッド・スポーツという言葉が生まれた背景には、1) 国際的に障害者といった表現を用いない傾向にあること、2) 障害者が中心であっても、対象者が必ずしも障害者に限定したスポーツではないことなどがあげられる。

将来スポーツに関わるスポーツ専攻の学生が、障害者や高齢者が行うスポーツについて理解を深めることはとても重要であると考えられる。

本研究の目的は、1) Bスポーツ大学学生のアダプテッド・スポーツに関する意識を明らかにすること、2) 学年、学科、コースなどにより、学生のアダプテッド・スポーツに関する意識に違いがあるかを明らかにすること、3) 今後のアダプテッド・スポーツ振興について考察することであった。

2. 研究方法

【調査対象】 Bスポーツ大学学生 (870名)

【調査方法】 質問用紙によるアンケート調査

【調査項目】 1) アダプテッド・スポーツについて (3項目)、2) 障害者のスポーツについて (17項目)、3) 高齢者のスポーツについての (17項目)、4) 個人的属性 (5～8項目)。

【分析方法】 SPSSを用いて、単純集計及びグループ間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定、一元分散分析) を行った。

3. 結果と考察

アダプテッド・スポーツという言葉を知っている対象者は少なかった (5.1%) のものの、学年が上がるごとに認知度が高くなる傾向が見られた。これは、大学で学習する中で、アダプテッド・スポーツという言葉を知りやすくなる機会が増えていくためであると思われる。

学科間ではアダプテッド・スポーツに関する認知に有意差はみられなかったものの、生涯スポーツ学科の方が認知度が高い傾向が見られ、コースでは地域スポーツコースが有意に高く、ゼミでは障害者スポーツを専攻するKゼミが最も高い結果となった。

障害者と障害者スポーツに対する認識では、障害者に関する授業を履修することで、障害者、障害者スポーツに対する偏見が少なくなることが明らかとなった。

スポーツを専門的に学ぶことによって、アダプテッド・スポーツという言葉を知りやすくなる機会が増え、認知度が上がる。専攻により、アダプテッド・スポーツの認知度はさらに上がり、対象者に対する偏見は減少することが明らかとなった。

さらにアダプテッド・スポーツを普及させるためには、学科やコースの枠にとらわれずに学ぶ機会を設ける必要があると示唆された。

【参考文献】

藤田紀昭 (2008) ^{アダプテッド}障害者スポーツの世界 アダプテッドスポーツとは何か. 角川学芸出版.